

Some people are against human cloning and **related** techniques / for
 this reason.
 = 前文の内容

内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を、誤っていれば×を記入しなさい。

1. Medical science basically admits that human life must be used for the benefit of others. ()
2. Through cloning, an egg cell develops its potential to turn into a human being. ()
3. There is some concern that cloning will cause people to produce human beings used for body parts. ()

覚えておきたい表現

be against ~ 「～に反対である」

ℓ.2 : Some people **are against** human cloning and related techniques 「ヒトのクローニングやそれに関連した技術に反対している人もいる」

• are against ~ 「～に反対である」: この against は前置詞。反対に「～に賛成である」は前置詞 for を使って be for ~ と表す。

Ex. Some **are against** the construction of the airport and some **are for** it. 「空港建設に反対のものもいれば賛成のものもいる。」

Some + 名詞. Other + 名詞... 「～の (名詞) もある。(また) …の (名詞) もある。」

ℓ.2 : **Some people** are ... **Other people** oppose ... 「～の人もいる。…に反対する人もいる。」

• Some + 名詞 ~ . Other + 名詞 ... 「～の (名詞) もある。(また) …の (名詞) もある」: 列挙・追加の表現。1つの文の中で Some + 名詞 ~ , and [while] other + 名詞 ~ . とする場合もある。

Ex. **Some students** come to school by bicycle. **Other students** use the school bus. 「自転車通勤する学生もいる。スクールバスを利用している学生もいる。」

S lead to ~ 「S が～の結果をもたらす; ~を引き起こす」

ℓ.10 : **cloning** will **lead to** the production of human beings for body parts 「クローニングは、身体の一部を得るためにヒトを生産することにつながるだろう」

• S lead to ~ : S が「原因」で, to の後にくるものが「結果」ということに注意したい。

Ex. **The accident led to** a massive traffic jam. 「その事故は大規模な交通渋滞を引き起こした。」

整理しよう! *段落要旨・構造*

① 医学のルールとクローニングの関係

• 医学の基本ルール=ヒトの命を他人の利益のために利用してはならない。

◆ ℓ.2 **Some** ~ 「ある～は: 列挙・追加」

上の理由でクローニングに反対する人もいる。

→ 「ヒトに成長するはずの卵を, 他人の細胞を作るために使うのは人殺しだ」という主張。

② クローニングに反対する理由

◆ ℓ.7 **Other** ~ 「他の～は: 列挙・追加」

• クローニング: 技術的に信頼できないという理由で反対の人もいる。

◆ ℓ.8 **for example** 「例えば: 例」

→ 動物実験の成功率の低さが一例。

◆ ℓ.8 **Still others** 「また他のものは: 列挙・追加」

• さらに, クローニングがもたらす将来を心配する人もいる。

→ 人体の一部を製造するためのクローニングになることへの恐れ。

◆ ℓ.11 **also** 「また: 列挙・追加」

• クローニングが「優れた」ヒトの製造につながる恐れがある。

背景知識

● 生命倫理 (bioethics) の問題

クローン技術を「人間」に適用することへの賛否両論は, いわゆる生命倫理 (bioethics) でも特に論争的なテーマと言える。その議論の背景を見てみよう。

生命科学与医療技術の発展を見た20世紀後半の医療分野では, ある事項に関しては従来は医者という高度な専門職の倫理的判断にゆだねられて決定されてきたものが, 例えば患者の信仰する宗教的問題や文化的問題の観点からの考察もその決定に必要とされるようになってきた。そこで「医の倫理」だけでなく, 広く哲学や文化, 宗教, 法律などこれまで部外とされてきた分野の知見を動員した包括的な研究として, 生命倫理が登場することになった。そこでは, 体外受精, 臓器移植, 妊娠中絶, 尊厳死といった人間そのものに関わる問題から, 遺伝子に関わるクローン技術, 動物実験の制限などまでが議論領域とされる。

クローン技術を人間に応用することが問題となるのは, 次の経緯による。ある細胞が欠落している人に, その欠落した細胞を補うには, あらゆる細胞種になりうる能力をもった細胞 (ES 細胞) を作る必要がある。通常の ES 細胞は受精卵に由来し, 自分以外の他人の細胞が関わっているため, 移植後の拒絶反応も懸念される。拒絶反応を起こさないようにするには, 核は患者自身の体細胞のものとして, 核を除いた未受精卵子に融合させてクローン胚盤胞を作ることになる。ここからは, 同じく全能性のある ES 細胞が作られるが, そのすべてが患者由来のものであるということで, ntES 細胞と呼ばれる。これはクローン胚と呼ばれ通常の受精卵とは区別されており, 生命倫理的に見て, ES 細胞よりも倫理に反する可能性は低くなると思われる。しかし, クローン胚であっても受精卵同様に「人間の生命の萌芽」と倫理的に位置づけられており (2006年の文部科学省科学技術・学術審議会の人クローン胚研究利用作業部会での位置づけから), そうしたものをそもそも人間が利用してよいのかということやはり議論のまとなっているのである。

【深めたい人に】: 木田元, 栗原彬, 野家啓一, 丸山圭三郎編『コンサイス20世紀思想事典 第2版』(三省堂, 1997年), 廣松渉, 子安宣邦, 三島憲一, 宮本久雄, 佐々木力, 野家啓一, 末木文美士編『岩波哲学・思想事典』(岩波書店, 1998年), 保呂篤彦「人間の尊厳をめぐる—バイオエシックスとカント—」(『岐阜聖徳学園大学紀要〈教育学部編〉』第42集, 2003年, pp.1-15)